

新教育ビジョン策定に向けた審議会委員等による意見一覧

(1) 「10年後の杉並の子どもたちのために私たちに何ができるか」(意見区分A)

提出意見

【審議会委員からの意見】

●子どもとは、未来への可能性を無限大に備えた新芽であると思う（豊かな環境で好奇心のままに自由に学びを育むことができる存在である）。それぞれの成長段階や状況において、子ども達の可能性を潰すことなく、多様な形で好奇心を開拓し、主体的な学びにつながる環境をつくっていくことが、わたしたちにできることではないか。

●全員参加型の共生社会を一緒につくっていくこと

・子どもたち1人ひとりがもつ「権利」を自覚し、行使できるような支援。学校と地域、家庭で取り組む。子どもの権利が尊重される社会では、全ての人の権利が尊重される。共生社会では権利が尊重され、差別されない。

・多様性を認める相互承認の段階から、多様な他者と協働する段階への支援。持続可能な社会をつくるために自分らしい貢献が可能になり、キャリア発達が促されるような、インクルージョンをめざした社会づくり。

●『子ども』＝これからの未来を創っていく存在。

その未来（1年後でも10年後でも）を想像できると、目標・生き甲斐となり日々の生活が楽しく心豊かになるのではないのでしょうか。最近将来の夢はと聞かれて、特になしと答える子どもも少なくないと聞きました。必ずしも夢を持たなければいけないというわけではないけれど、「これをやりたい、やってみたい」という好奇心の芽を育てる事の必要性を感じています。夢に向かう前に、まずは夢・目標を見つける手助けを教育の場や家庭でしていくことが私たちにできることの一つなのではと思いました。学校での様々な経験、様々な人たちとの交流を通して学び、自分たちを見守ってくれている大人たちがいるという安心感をお子たちに伝えていくことも大切なかもしれません。

●自己肯定感と自己効力感を高めること。

子どもとは、希望であり、未来を創る可能性を持つ宝である。夢や希望を持ち続けてもらうために、子どもたちに寄り添い、子どもの考えや想いに耳を傾け、子どもにとって安心できる存在・信頼できる存在になっていくこと。また、私たち自身も多くの引き出しを持ち、子どもたちが自信を持てる場をつくっていくこと。

●子どもたちの好奇心を大切にしたいと思います。子ども自身の好奇心を中心に置き、大人たちはそれを傾聴し応援しより育てていく、そんなことができるのではと思います。

●「杉並」を愛し、「杉並」に住み続けていきたいと子どもたちが思えるような教育・環境・行政の整備。地域価値の上がるように住民意識（例えば相互扶助の精神等）の醸成。

●【意見区分Cとしても提出】10年後は、日本全体が大きく変化されることが予想される。経済格差はより大きくなり、すべての大人が安心して働ける社会に果たしてなっているのかも大きな危惧がある。そのなかで、ひとりひとりの持つ多様な差異を尊重しあい、協力して社会をつくるために必要な、インクルーシブ社会に向けた基盤的体験（フル・インクルーシブ教育の実現）、自分自身の不満や困難を政治的な問題に捉え返し、政治に対して提言したり、選挙権・被選挙権を行使し得るような公民教育・主権者教育、絵を描いたり、生涯スポーツを楽しんだり、本を読んだりといった、文化的に豊かな生活を享受するための基盤的な体験などが学校において重視されるべきではないか。職業的自立偏重の狭義の学力重視からの転換がいま喫緊に必要な。また、地域社会での孤立が深刻になる中で、家庭でも孤立している子どもは、学校でのみ、保護者以外の大人と出会うことができるという深刻な環境にある。そこで、すべての教職員がひとりひとりの子どもの良さを多面的に見守る体制の整備（学級担任制の大胆な組み替え）、さらに、地域の市民が学校において子どもたちと

提 出 意 見

日常的にかかわることができる場面の整備などが必要である。

●【A案・B案提出】

(意見A) 杉並区教育ビジョン 2012 を引き継ぎ、コミュニティスクールとして保護者や地域が連携・協力して総合的な教育力の向上を図り、一人ひとりの持ち味を活かしながら、次世代の担い手として豊かな人間性を育むための支援を行う。具体的には以下の点をあげます。

- ・学校、家庭の環境に加え、地域人材や地域力を活かした多様性のある学習機会を支援する。
- ・多様な人との触れ合いをとおして、豊かな人間関係の構築や他者を尊重する気持ちを育む。
- ・子どもたち一人ひとりの自己肯定感の向上は課題である。十人十色の子どもの中には、基本的な学習からでは自己肯定感を得にくい子どもたちもいます。地域力を活かして、子どもたちが未来に希望をもてるよう、多様な学習の機会を提供し補う。
- ・子どもたちは、大人が想像している以上に心を開き本音を語るができる。喜びや問題を他者と共有することから、自己の存在や自己実現の道筋を実感し学ぶことも多い。子どもにも理解者が必要であり、地域はその受け皿として、子どもたちの心の見守りの一翼も担う。
- ・教育を応援する地域が、現場の教員と対話や意見交流をして、子どもたちの現状を理解しつつ、具体的に必要な教育支援を導き出す機会を設ける。これにより学校と地域は、より緊密な関係を構築し円滑に活動することができる。
- ・地域の歴史や伝統、自然など既成の環境を学び理解するとともに、新たに地域の文化的な空気感を子どもたち自ら関わり作り上げることで、地域の一員として誇りや親しみを実感し、地域への思いを醸成する。例えば、音楽演奏活動、アート活動など、これまでである活動も学校や地域の関わり方を工夫することで効果は上がる。

(⇔もしくは)

● (意見B) 次世代を担う子供たちには、変わりゆく社会構造に順応して、社会全体を支えることが求められます。更に、地域社会では希薄化が進んでいることから、地域社会の持続に関して、子どもたちへの期待感が高まっています。子どもたちは、地域社会に活気や賑わいをもたらすとともに、地域発展を託す人材であります。地域社会が子どもたちを地域の一員として関わり、豊かな人間性と感性を共に育み、そのための支援を行います。

- ・好奇心や探求心を大切に、デジタル化などの環境に順応した創造する力を育てる。
- ・地域との関わりをとおして、他者への尊重と自己の存在感、互いの協調を共に学ぶ。
- ・地域に誇りや親しみを感じ、将来的に社会貢献につながる意識を醸成する。
- ・複雑化した子供たちを取り巻く環境の中で、学習に対する不安や人間関係の問題、様々な苦手意識などから自己肯定感を持ちにくいケースもある。地域とともに多様性のある環境を提供して、一人ひとりが持ち味を活かせる「場」の工夫をおこなう。
- ・子どもたちは、大人が想像している以上に心を開き本音を語るができる。喜びや問題を他者と共有することから、自己の存在や自己実現の道筋を実感し学ぶことも多い。子どもにも理解者が必要であり、地域はその受け皿として、子どもたちの心の見守りの一翼を担う。
- ・地域の歴史・伝統・文化など様々な体験から、地域と子どもとが価値観を共有し、持続可能な地域社会の未来を子どもに託す。

提 出 意 見

<参考>関係団体等から出された意見

【区立子供園園長会】

- 子ども時代を幸せに生きるために・・・自分は愛されている存在と実感して生活を送れるようにする。
- 『はてなの連鎖』が展開される教育・保育を保障する。
- A I の時代の中でも、よく考え人と思いや考えを共有しながら生きる子どもを育てる。

【区立中学校校長】

- 子どもたちは将来の杉並区、東京都、さらには日本を支える貴重な人材。私たちにできることは無限の可能性を秘めた子どもたちの資質・能力を育むために学校教育を充実させることである。
- 公私学校選択の機会拡大や生徒数の減少が進む中、部活動の数と部員数・教員数の不均衡が生じています。部活動の拠点校の推進を計画的に進めてもらいたい。
- 大人の私たちに何ができるのかということならば、数値によるなど目標を明確にし、計画を立て、予算をつけて実行することと考えます。つまり、エビデンスに基づく教育ビジョンの策定ということになるのではないのでしょうか。
- 設置監督庁として、杉並区として独自に何かあるなら打ち出すべきで、特になければ、新課程実施に向けて学校と連携して行っていくビジョンを示せば良いだけだと思います。

【調整会議委員】

- 【意見区分Cとしても提出】学んだことを多面的に捉え、考え、自らの将来に繋げる行動ができる子ども
- 2030年、子どもたちにはこうあってほしい～「主体性の確立」「自己肯定感の醸成」「非認知能力の向上」「他者との共存・思いやり、多様性の尊重」⇒この実現のためには『「まち」との協働』（ただしこれからは「課題」だけではなく「責任」も共有していく新しいスタイル）と『「デジタル」のフル活用』（この10年で「デジタル」の位置づけは社会の中で確実に変わる。極端に言うと「衣食住デジタル」になる）を推進する。